錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第５０５号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会

編集室 2025

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：生徒会座談会 今期を振り返って
都高文祭で映研優良賞＆放送部優秀賞
二面：視聴覚教室「行きたい場所をどうぞ」
ワンゲル、クマの出没に影響受け…

よりよい未来に向かって どうする生徒会

新体制いよいよ始動 新旧座談会開催

11月19日（水）に編集部主催で生徒会座談会を行った。参加したのは前生徒会役員、新生徒会役員、中央委員会一般委員だ。座談会では編集部員を中心に前期の活動や今後の活動の予定などについて意見が活発に交わされた。（編集部共同取材）

前期の反省から、これからについて意気込む

今年中に提案書完成と宣言

新聞委員会委員長の司会で、まず前生徒会の活動を振り返ってもらった。前副会長だった神田陸翔さん（2G）によると、生徒の関心が高かったスマホルールの緩和については生徒会として3月に提案書を出したが生徒部の先生に「提案書の内容が薄い」と評価されたと振り返る。6月には再び提案書を生徒部に出そうとしたが、前管理の中村俐月さん（3C）によると本来必要な中央委員会の承認を省いてしまったため、廃案となったそうだ。

改めて副会長の神田さんが9月に提案書をまとめたが、中央委員会としてそれ以上進めることができなかったとのこと。神田さんは「完全に自分のコミュニケーション不足です」と活動を振り返った。新生徒会としては具体的なめどはたっていないそうだが、今年度中に提案書を完成させたいと神田さんは話す。

前期の成果を振り返る

一方、昨年度の生徒会選挙で挙げた校内でのイヤホンの使用許可については全く進めていないそうで、神田さんは生徒に「校内でイヤホンは使用禁止です」と呼びかけた。

前生徒会の公約として神田さんが挙げていた錦城祭での順番管理アプリ「JunBan」の導入について、改めて詳細を聞いた。2Kと2Lで試験的に導入をお願いしたが、当日は予想を超える来客で対応できずにアプリが使われることはなかったそうだ。また錦城祭実行委員会とも連携をしていなかったと振り返る。

これについては、新錦城祭実行委員長の和田瑞樹さん（1H）が、生徒だけではなく保護者や先生などにアンケートを取ることで提案書の材料を集め、アプリ導入を進めたいと意気込んだ。

また中村さんは、旧生徒会の活動として学年ごとの球大練習のバスケコート割り振りの提案を実現したことも活動として挙げた。

意見が入らない意見箱

また新旧生徒会で継続する案件として、意見箱に取り組むことになっている。今年度から活動している一般委員の鈴木美雨さん（1A）を中心に、現在クラスルームを活用したり、意見箱の見た目を変えたりするなど、意見箱が活用されるように動き始めているそうだ。

だが、中村さんは「意見箱に意見が入れられていることはほとんどないです」と現状を明かす。前監査委員長の新井陽奈さん（3E）や前生徒会長の峯村苺花さん（3F）も「そもそも紙がないし、鍵もないですし…」と話す。また、二人は「日常で校則などに対する不満は聞くのに、意見箱で見ることがない」と昨年度を振り返った。

意見箱に届いた意見は、意見箱のすぐ近くの掲示板に回答書を貼ることになっていると話す峯村さん。意見が来ることはなかったものの、生徒会としてはメールで届いた意見などについては意見者に返信したり、生徒会報や監査通信に載せたりすることを考えていたそうだ。

地域活動の継続について

旧生徒会では、一般委員が中心となってテレビ東京の『田村淳のTaMaRiBa』企画に参加してきた。番組は、高校生たちが地域課題の解決や地域創生のプロジェクトに取り組むもので、FC東京などの協力した企画が進められていた。一般委員の金子優歩さん（2H）によると基本、テレビ局側からオファーを頂くそうなのだが、今年はオファーを頂いていないため、動いていないという。昨年度企画したものは3年生の探求で進めているそうだが、3年生が卒業してしまうため、他の学年に引き継ぎをしたいと話す。

他に、小平市のイベントとして市内にある高校の生徒会で地域貢献を企画する「KOKOプロ」については、最近では今年10月に市役所の方とミーティングが行われたという。内容はまだ計画段階だといい、実際に企画が行われるのは来年6月の予定だ。

（裏面に続く）

外部連携についても話が出た

～ことば～

前生徒会の話で出てくる「管理」とは、中央委員会の役職の一つで会長補佐と提案書管理が主な仕事（生徒会会則32条など）。前管理の中村さんによると、6月に中央委員会の推薦で任命される。現管理は一般委員の金子優歩さん（2H）。

自らの意見を交換して

神田会長からみなさんへ

「企画書を作る時に、生徒の声が必要になりますが、回答が全生徒の5割くらいしか集まらないこともあります。アンケート等で声が上がれば実現に向けて動けます。新生徒会長として、アンケートのご協力お願いします」

都高文祭映研・放送部入賞 映研は関東大会へ

「今回の経験を次に生かしたい」

映画研究部 優良賞

11月16日（日）、日本工学院八王子専門学校で第48回東京都高等学校文化祭放送部門大会が行われた。ビデオメッセージ部門に出場していた映画研究部は優良賞（3位相当）を受賞した。目標の全国大会出場（2位以上）を逃したが、関東大会に出場することになった。今回の作品は小平のご当地ヒーロー「コダレンジャー」をはじめ小平市を陰で支える方に焦点をあてたもの。制作中心として活躍した山本真緒さん（2H）と伊藤旭陽さん（1B）に取材をした。

部室の前で、意気込む 映画研究部

山本さんは「3位で悔しいです。引退試合となるNコンではドラマもドキュメントも好成績を残せるように頑張りたいです」と思いを語る。伊藤さんは「他校の作品から学べるところもあって、いいところも悪いところも参考になりました」と話す。他の部員に向けてはNコン頑張ろう、リベンジしよう、と意気込んだ。

放送部 優秀賞

同日のオーディオドラマ部門に出場した放送部は、優秀賞（2位相当）を受賞した。都高文祭での受賞は久しぶりの快挙だそう。

大会作品は『掬い、救われ』。廃部寸前のオカルト研究部の部長とオカルト好きの新入生が、7年前の事件の幽霊探しをするというストーリーだ。

受賞作品の録音の様子

脚本から音録り、編集まで全て部員が担当。編集担当の金明日歌さん（2D）は、「限られた時間で伝わるようにするのが大変だったが、皆で協力して賞を獲れて良かったです」と語る。活発な新入生を演じた清田静さん（2L）によると、作品に深みを出すために煤に触る音をゆかりで表現するなど細かいところまでこだわったという。清田さんは「オーディオドラマ制作は初めてだったので難しかったですが、この経験を次につなげていきたいです」と笑顔を見せた。（水・綿）

BREAKING NEWS

桜植えてます

11月27日（木）から60回生の卒業記念である桜植樹の工事が行われている。今後の新聞で詳しくお届けするので、楽しみにしていてほしい。

eggg parkさんの錦城生限定学割知ってる？

錦城から自転車で10分ほどの場所にある「eggg park」で2026年4月30日までの平日、錦城生限定の学割が登場した。「トマトソースオムライス」など人気メニューが300円で食べることができる。錦城高校新聞468号では、「食欲の秋 小平食い倒れスペシャル!!!」でお店を取材させていただいているので、食べに行く前に読んでほしい。

東京2025デフリンピック閉会！

東京2025デフリンピックが11月26日(水)に閉会した。日本選手団は金メダル16個を含む合計51個を獲得。計約28万人の観客を動員し、入場規制が行われた会場もあった。(参照：読売新聞オンライン11月26日)。錦城高校新聞では12月中に発行予定のデフリンピック特集3で試合観戦の様子などをお届けする予定だ。

新聞委員会 都最優秀賞受賞！

委員長「これからも新聞づくりに励んでいく」

11月15日（土）に2025年度第41回東京都高等学校新聞コンクールの表彰式が、私立三輪田学園中学校・高等学校で行われた。このコンクールでは、昨年10月から一年間で発行された全新聞が審査対象となる。錦城高校新聞委員会は19年連続となる最優秀賞を受賞。この結果、来年の8月に開催される全国総合文化祭あきた総文２０２６の出場が決定した。

新聞委員会委員長の西村真歌さん（2I）は、「先輩方が築き上げてきた歴史を途絶えさせることなく未来につなぐことができて本当によかったです。部員たちに、感謝の気持ちでいっぱいです」と安堵の表情を浮かべ、部員に感謝の思いを伝えた。また、「これからもがんばって新聞づくりに励んでいこうと思います」と意気込む。

グループごとの見出しを発表

また、よりよい新聞を目指すためのセミナーも同日に開催された。都立立川高等学校、私立吉祥女子中学校高等学校などの高校が集まり、学校を越えた5～6人のグループごとに、錦城高校新聞の記事を題材にして、新しい見出しを考えた。その後、グループごとに異なる視点や工夫を凝らした見出しを発表した。参加した錦城の宮寺真央さん（１D）は、「見出し付けは高校ごとに色々特色があり勉強になりました」と今回のセミナーを振り返る。錦城新聞では大見出しを２つ付け、１つは出来事の情報もう１つは興味を引くようなエモい見出しにしている事が多い。宮寺さんはそれが普通だと考えていたというが、今回のセミナーで大見出しを２つ付けている学校はむしろ少ないことに気がついたと話す。「他にもさまざまな面で新聞に関する学校の違いがあり、とても良い経験になったのでこれからの錦城新聞づくりに役立てて行こうと思います」と宣言した。（桃）

むらさき草

近所にとても優しいおじいちゃんが住んでいる。２年前に自治会で知り合った。自治会でしか会うことのない、お互い名前すらよく知らないそんな仲だ▼先日、なんとも気持ちの良い朝でいつもと同じように自転車に飛び乗った。謎にテンションが上がっていたせいか、漕ぎ始めると同時に「元気１００倍アンパンマン！」と叫んでしまった。いや、叫ぶつもりなどなかったが時すでに遅かった▼それなりに大きな声が響いたと思う。周りに誰もいないことを願ったが、近くにそのおじいちゃんがいた。２秒くらい静寂が流れた。お互いにどうリアクションをとれば良いのか、気まずい瞬間だった▼だが、その沈黙は予想外の形で破られた。おじいちゃんが「助けて！アンパンマン！！」と叫び返してくれたのだ。とりあえず「行ってきます！」とだけ言って自転車を走らせた▼後々振り返って、感謝の気持ちでいっぱいになった。近所に住んでいるというだけの名前も知らない高校生をたぶん気遣ってくれて、さらには巧みなユーモアセンスでこちらを「くすっ」とさせてくれた。おじいちゃんから託されたほわほわバトンのおかげで、温かい気持ちでその日を過ごすことができた▼毎朝、横断歩道の前で旗を振ってくれている見守り隊の方や、必ず「おはよう」と声をかけてくれる近所のおじいちゃんおばあちゃん。私の周りには私が思っているより多くの人がいて、知らず知らずのうちに守られている。あなたの周りにも必ずいる。あなたを支えてくれている人が▼改めて地域の温かさを実感した。そんな人たちに改めて感謝を伝えたい。（菊）

名演技に心揺さぶられる

視聴覚教室『行きたい場所をどうぞ』鑑賞

11月21日（金）の午後、62、63回生はルネこだいらで演劇『行きたい場所をどうぞ』（青年劇場）を鑑賞した。夕凪の時々空気を読めないような言動に会場は笑いの渦に巻き込まれた。終演後には、役者さんにインタビューに応じていただいた。

（編集室共同取材）

駅長役では物語の最初と最後で、価値観が変わっていることを伝わるように演技したと話す。左側は光莉役の竹森琴美さん、右側は駅長と鈴役の岡本有紀さん。

「行きたい場所」を探す

期待に包まれ大きな拍手とともに幕が上がると、役者さんたちが細長い棚を舞台上で動かしながら苦しんだり迷ったりする姿に、どのようなお話が始まるのかと興味津々の錦城生。場面が替わって、駅にいる道案内ロボット夕凪（ゆうなぎ）はいつものように駅を見守ったり道案内したり。

街に引っ越してきて間もない高校生の光莉（ひかり）が「ネラ」に行きたいというが、夕凪が検索しても見つからない。夕凪は光莉の腕をつかんで駆けだし、二人の「行きたい場所」を探していく。大道具も小道具も必要最低限で、表情や動き、セリフだけ創り上げられた場面に引き込まれた。コミカルさもあり、思わずくすっと笑ってしまった場面も。最後には自分自身の「やりたいこと」を考えさせられた。

観劇した三田玲嘉さん（1K）は「演劇を久しぶりに見たので、とても感動しました！」と興奮気味に教えてくれた。音響、演技、照明、数少ない小道具の世界観の表現にとても引き込まれたそう。「自分がなにをやりたくて、なにをやりたくないのかを考える機会になった」と嬉しそうに語った。

演劇は人生を学ぶ教科書

終演後、ロビーで光莉（ひかり）役を演じた竹森琴美さんと、駅長と鈴（旅人）役を演じた岡本有紀さんにお話を聞いた。竹森さんは、光莉は周りの人に影響されて育ったため、人の話をよく聞きアンテナを張るキャラクターを意識して演じたそうだ。光莉のお母さんは舞台には出てこないからこそ、日常を想像して実際にいるように電話のやり取りを演じたと語ってくれた。また、豆知識としてロボットの名前はすべて夕凪や青嵐など風の名前になっているんだよと教えてくれた。

岡本さんは、舞台を演じる上で嘘をつかないことを大事にしていると語る。お芝居は現実でないことを現実であるかのようにするもので、観客との信頼関係でできるもの。本番では想定外のハプニングも起きるが、それを見て見ぬふりする嘘をついてしまうと、仮想の世界であると観客が感じてしまうと岡本さんは考える。また旅人の鈴はロボットではなく人間だからこそ、人間らしい良いところも悪いところも見えるよう演じることを大切にしたそうだ。

演劇は人と出会える場所

演劇は人との関わり方を学ぶ教科書のようなもの、という竹森さん。演劇を通して人との関わりや様々な役作りを経験し、友人が言っていた「周りの空気を読む」ことが理解できるようになったと振り返る。一方、演劇は人と出会える場所であり、自分の世界を広げてくれるものという岡本さん。演劇を通して別の世界を知り、あんなことやこんなこともあるのかと視野が広まり、様々なことが見えてくるそうだ。

「失敗恐れず勇気を出して」

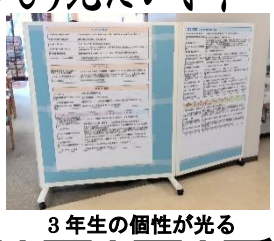
竹森さんが初めて光莉役を演じた20歳の頃は、光莉の気持ちや考えに等身大で共感できることが多かったそうだ。しかし、今はだんだんその年代から離れていっているため、この頃の年代に感じていたことを忘れないようにしていると苦笑交じりに語ってくれた。「光莉は胸の内に大きな葛藤をもっているから、それを観客の皆さんに共有してもらうためのエネルギーを持ち続けることが大変です」と明かす。

岡本さんは旅人の鈴役を演じる中で、鈴の自分の意見をはっきり持ち発言できる人物像にあこがれたという。そのはっきり言える性格には過去に大きな挫折があったからだろうと想像し、「表に出さない、自分の中に持っている裏の思いも大事にしないとなぁ」と気づかされたそうだ。

今回の演劇が、進路選択などをする上で皆さんの背中を押す演劇となれば嬉しいと振り返ってくれたお二人。竹森さんは「自分で選ぶことは怖いし難しいけど、頑張っていっぱい転んで立ち上がって素敵な道に行ってほしいです」と述べる。岡本さんも「失敗してもいいんだよ。失敗を恐れずやりたいことをやってみてもいいんじゃない？勇気を出してみると新しい世界が見えてくるよ」と錦城生にメッセージをくれた。

3年生探究パネルもう見たかな？

現在二階ラーニングスペースに、61回生が行った探究の幅広い探究テーマと感想が表にまとまって掲示されている。62、63回生はぜひ、自分の探究の参考にしてみよう。



3年生の個性が光る

新旧生徒会座談会続き

スマホルール緩和について

後半はスマホの話。一般委員の佐々木晶大さん（3H）は「（ルールを）緩和しようとしても、先生からの信頼がないことには規則を緩くすることはできないですよね」と話す。日常にて試験的に導入し、様子を見るというステップを踏む必要があるかもしれないと考えているという。前管理の中村俐月さん（3C）も「学校側に『規則を変えたい』という意思がない以上厳しいです」と現状を説明した。

前生徒会が『今』スマホの規則を緩くするのは無理だろう」という見解の中、新生徒会長としてスマホのルール緩和を公約に掲げる神田陸翔さん（2G）は「スマホのルールを変えることの難しさは重々承知しています。中央全体で行うというよりは個人的に進めるという方向で考えています」という。

情報公開については？

ここで新聞委員会から、生徒から声が上がっていた、生徒会活動の情報公開について考えを聞いた。

一般委員の鈴木美雨さん（1A）は、「私は情報公開には反対の立場ですが、今年に比べたらもっとしたほうがいいのかなと思います」と話した。ただ、あまり公開すると「余計な期待を生徒に抱かせ、今生徒が必要としていることや中央委員会がやるべきことなどが見えなくなったりしてしまう」などといった問題が発生するという懸念もあるそうだ。

「ルールを変えることの難しさは重々承知しています」

一般委員の小林怜翔さん（1B）は「企画などが実現するのは『こういう改正になります』と伝えた一年後だったりする可能性があります。そのときに勘違いで文句を言われたりしたら嫌なので、情報公開することは反対です」という。神田さんも「期待を持たせたくないです」と小林さんと同意見とのこと。

情報公開　賛成の意見も

一方、新錦城祭実行委員長の和田瑞樹さんは「文句が出ても、それも生徒の意見だと思います」と話す。一般委員の金子優歩さん（2H）も、和田さんの意見に同意する。新監査副委員長の田原凛乃さん（1C）さんは「座談会を通して新しく聞いた情報が沢山あって、聞けて良かったです。『これを生徒に言った方がいいな』と思ったものが実際にあったので、情報公開はしていくべきだと思います」と考えを述べた。

＊＊＊

新旧生徒会の座談会は最終下校ギリギリまで続いた。様々な活動に取り組む中央委員会だが、その進捗について多くの生徒が何をしているかわからないという声も上がっている。実際に今回の選挙の候補者たちからは、そもそもオンライン意見箱などの存在を知らなかったという意見が挙がっていた。

もちろん生徒たちの意欲や意識改革も必要とされている。これからの生徒会の動向に注目したい。

熊の出没増える中、どうするワンゲル！

熊被害　今後の活動に影響も…

2025年８月以降、東北を中心に熊被害が拡大している。ワンダーフォーゲル部も８月の夏合宿で北アルプス北部の雲ノ平を中心に縦走したが、熊のためにコースを変えざるを得ない状態になったそうだ。顧問の川越先生に話を聞くと熊が出現したのは、夏合宿一日目にお昼休憩をとった太郎平を部員が出発したわずか一時間後。周辺の宿泊者テントが襲われて、全国ニュースにも取り上げられた。川越先生は「熊が太郎平に現れたと聞いたときは肝が冷えました」と振り返る。さらに二日目の宿泊地から約１キロ先の地点にも熊が現れ、部員たちは宿から出ないように要請されたという。

合宿中の熊対策について川越先生は「部員の中に熊対策係を設置し、全員が熊鈴を鳴らして警戒していました。また『ベアホーン』というクラクションを５００メートル歩くたびに鳴らしていました」と語る。副部長の吉村優花さん(2K)は「熊は人間を怖がる生物なので、できるだけ部員同士で話したり音をたてたりすることで自分たちの存在を知らせるようにしていました」と話してくれた。

熊が出没した太郎平小屋

ワンダーフォーゲル部の活動の際に熊が出ることは珍しく、今まで２回しか遭遇していないという。熊被害が多くなった原因は、時代の変化により熊の立ち入る範囲が増加したこと、観光客の熊に対する餌付けで熊が人を怖がらなくなったことなども関係しているだろうと考察する川越先生。今後の活動については、「最近は人間に慣れている熊が多い影響で熊の出現率が低い山を選ばなくてはいけません。山行が熊の影響で中止になることもあるかもしれないです」とのこと。これを受けてワンダーフォーゲル部の生徒は「部員たちで考えて安全である可能性が高い山や比較的熊と遭遇しにくいルートを選ぶように工夫して、少しでも多くワンダーフォーゲル部の活動ができるようにしています」と話してくれた。

（燕）

大会報告

男子バスケットボール部
10月19日（日）から
▽新人戦第四支部大会
二回戦敗退

剣道部
10月25日（土）
▽東京都高等学校秋季剣道大会（女子の部）
ベスト32

将棋部
11月2日（日）
▽東京都高校学校文化祭将棋部門中央大会
将棋部門　女子個人選手権
5位入賞

映画研究部
11月15日（土）
▽第45回「地方の時代」映像祭　高校生(中学生)部門
奨励賞

新聞委員会編集部
11月15日（土）
▽第41回東京都高等学校新聞コンクール
最優秀賞

映画研究部
11月16日（日）
▽第48回東京都高等学校文化祭　放送の部　ビデオメッセージ部門
優良賞（3位相当）

放送部
11月16日（日）
▽第48回東京都高等学校文化祭　放送の部　オーディオドラマ部門
優秀賞（2位相当）

写真部
11月19日（水）
▽第53回東京私立中学高投学校　生徒写真・美術展
特選「満ちるとき」
佐藤　さよ（2J）
入選「夜空に咲く思い出」
菅沼　碧（2G）

体操部
11月23日（日）
▽体操競技秋季大会
団体総合6位入賞

ソフトテニス部
11月23日（日）
▽令和7年度新進団体選手権
東京都ベスト16

映画研究部
11月24日（月）
▽ティーンズビデオ2025
出演

生徒会動静

10.16～12.1

▽合唱祭実行委員会
随時活動

デフ応援　手話を覚えよう！⑬

今回手話を実演してくださったのは、数学科の坂佳彦先生。第13弾で紹介するのは、「なるほど」だ。親指と人差し指を直角にして、顎につける。そして左右にふる、というものだ。日常生活でも使おう！